



TITLE:

<第4編 ジャワ島> 【事例17】
Edmundson / 東部ジャワ州 /
Malang県 3カ村

AUTHOR(S):

五十嵐, 忠孝

CITATION:

五十嵐, 忠孝. <第4編 ジャワ島> 【事例17】 Edmundson / 東部ジャワ州 / Malang県 3カ村.
重点領域研究総合的地域研究成果報告書シリーズ: 総合的地域研究の手法確立: 世界と
地域の共存のパラダイムを求めて 1994, 5: 109-111

ISSUE DATE:

1994-09-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/187449>

RIGHT:

【事例17】Edmundson／東部ジャワ州／Malang県3カ村

1. 調査

対象

ジャワ島、東部ジャワ州、Malang 県 (Kabupaten)、Pontjokusumo 村、Glanggang 村、Pagak 村の3カ村。

調査者

Wade Edmundson

調査期間

1970-1971年(18ヵ月)

報告

Edmundson, Wade C. 1976. *Land, Food, and Work in East Java*. New England Monographs in Geography No. 4., Department of Geography, University of New England.

Edmundson, Wade 1981. Nutrition and the household economy. In: *Agricultural and Rural Development in Indonesia*. edited by Gary E. Hansen. pp. 255-269. Boulder; Westview Press.

2. 対象の概要

地域の概況

Malang 県は東部ジャワ州の南部にあり、東部ジャワ州の他の県に比し降水条件には恵まれ、人口密度はジャワ島全体のそれとほぼ同じ、西部ジャワ州より高く、中部ジャワ州よりは低い。Pontjokusumo 村はトウモロコシ、Glanggang 村は稲、Pagak 村はトウモロコシとキャッサバを、それぞれ主として栽培する。

対象集団の概要

3村ともジャワ人の村で文化的背景は同一である。

3. 調査項目と方法

調査方法

3ヵ村、54人の成人男子について食物摂取量とエネルギー消費量を計測。

調査項目

耕地経営規模はエネルギー摂取に影響を及ぼすか？／低エネルギー摂取は低労働生産を惹起するか？／栄養欠乏は遍在するか？

4. 主たる結論

耕地経営規模はエネルギー摂取に影響を及ぼすか？

耕地の経営規模は資産の多寡と有意の関連があるが、耕地の経営規模はエネルギー摂取量の多寡とは何の関連もないだけでなく、資産の多寡も、また、エネルギー摂取量の多寡と関連していない。すなわち、上層の階層ほど栄養状態が良いということはできない。

上記の理由として、以下のような事実が関連すると考えられる。1. 何を食べるかは、経済状態より食物嗜好／食習慣によるところが大きい。2. エネルギー源となる主食の供給は通常最少需要を満たしており、後に述べるような例を除き、栄養欠乏症は存在しない。3. 貧困層は、富農層より一層激しく労働しなければならないゆえに、食物摂取量も多くなる。4. 土地無し層には代替収入源が比較的豊富にあり、必要とあらばそのつど現金収入をうるができる。5. 富農層は世帯人数が多いだけでなく、しばしば世帯外にも養うべき者を抱えている。6. 助け合いの伝統、とりわけ富める者の富まざる者への援助。

低エネルギー摂取は低労働生産を惹起するか？

すべての対象についての平均エネルギー摂取量は、平均エネルギー消費量を満たしていた。しかし個々人について両者の関係を見ると、まったく相関がみられず、これはエネルギー利用効率の個人間変動が大きいためと見做される。各個人についてエネルギー消費量の平均値を、エネルギー摂取量の平均値で除した指数(摂取エネルギー当たりの労働生産を示すと想定)を算出し、これを用い

てエネルギー摂取と労働生産との関連を調べると、労働生産はエネルギー摂取にまったく依存していないことが分かる。もちろん、このことが成立するエネルギー摂取量の範囲があるはずである。

栄養改善の戦略からいえば、摂取エネルギーを増やすことはもはや重要でなく、農業の生産性をもっと上げて、蛋白・ビタミン源となる生産物の栽培を可能とする余裕を生み出すことが重要である。

栄養欠乏は遍在するか？

男子については、チアミンとビタミンA摂取がマージナルであることを除くと、エネルギー摂取は十分であり、何らかの蛋白欠乏を示す臨床的証拠もなく、低栄養は問題とはならないといえる。ただし婦人達の健康状態は若干劣り、希に浮腫等の蛋白欠乏症状を示す者もいるが、妊娠後ないし下痢性疾患を患った後の婦人、ないし母乳が不足である場合の乳児に限られる。

これに対して、離乳(出生後2-3年目に行なわれる)から6歳頃までの幼児と、45歳以上の年齢層については、以上とは異なり、健康状態は劣る。離乳後の幼児の場合、低栄養だけでなく下痢性疾患、皮膚疾患の罹患率が高い。→子供が“干し魚を食べると虫が湧く”という俗信。45歳以上の年齢層についてはさまざまな愁訴が聞かれ、ビト一斑も見られた。

全体として栄養状態は、予想より遥かに悪くない。端境期における栄養素摂取量の低下もたしかに観察されるが、これも予想ほどではなかった。

一般にジャワ島の栄養問題として蛋白-エネルギー欠乏症が注目を浴びているが、むしろミネラル欠乏症およびビタミン欠乏症に注意するべきである。

5. コメント

単なる食物消費量ないし栄養摂取量調査に止まらず、エネルギー収支にまで立ち入った本格的栄養調査の先駆けとなったものである。ジャワ島の栄養問題に関る「常識的了解」とは異なる結果が出ている点でも、注目すべき調査である。

(五十嵐忠孝記)